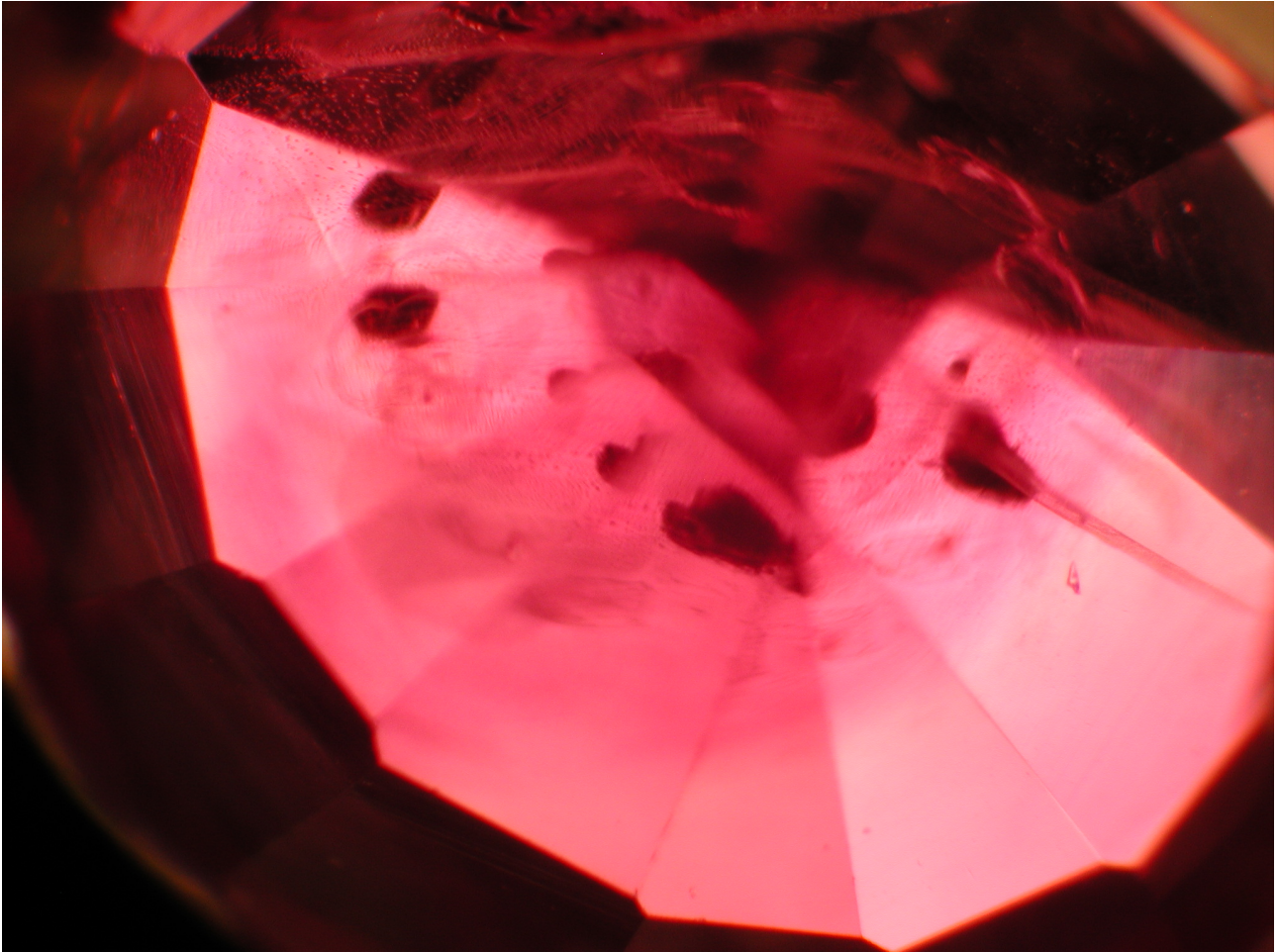


今月の写真/JGSニューズレター2017年18号(7月発行)

「ミャンマー産ルビー中の糖蜜状組織」



撮影・文： 高橋 泰（倍率×40で撮影）

最近のルビーはアフリカ産が主流で、かつての産地は産出量が減り店頭ではたまに見かける程度である。ミャンマー産ルビーも例外ではなく、ハイジュエリーやアンティークの世界で見かけるぐらいになった。ピンク味の強い色合いは日本人好みであるが、色の特徴の一つに写真の様な糖蜜状組織がある。通常のコランダムは色むらがあるとすれば結晶の外形に沿ったシャープな境界で変化するが、このルビーの色むらは境界が曖昧で、ストロベリーシロップを水に流し込んだような外観を示す。まさに“糖蜜状”のネーミングにぴったりである。